



「<sup>おう</sup>王さまは、  
『イスラエル<sup>じん いえ</sup>人の家に  
<sup>おとこ</sup>男の子が生まれたら  
<sup>かわ</sup>川にすてなさい』っていうの」  
「えっ、うちの<sup>あか</sup>赤ちゃんも？」

<sup>かあ</sup>お母さんは、<sup>あか</sup>赤ちゃんを<sup>かわ</sup>川のそばにかくしました。



ミリヤムがかくれて<sup>み</sup>見ていると、  
エジプトの<sup>おうじょ</sup>王女がやってきて  
<sup>あか</sup>赤ちゃんを見つめました。

「わたしが、この<sup>こ</sup>子を<sup>そだ</sup>育てるわ。  
モーセという<sup>なまえ</sup>名前<sup>なまえ</sup>にしましょう。  
<sup>せわ</sup>世話をしてくれる人<sup>ひと</sup>はいないかしら？」



ミリヤムが<sup>おうじょ</sup>王女にいいました。  
「<sup>あか</sup>赤ちゃんのお<sup>せわ</sup>世話を<sup>ひと</sup>する人がいますよ」  
そして、自分のお<sup>じぶん</sup>母さん<sup>かあ</sup>をつれてきました。





モーセは、エジプトの王子おうじになりました。  
でもモーセは、自分じぶんがイスラエル人じん  
だということを知しっていました。

ある日ひ、モーセは、  
イスラエル人じんをいじめるエジプト人じん  
をやっつけました。  
そして、遠とくおくににげていきました。



モーセは羊飼ひつじかいになりました。

モーセは山やまの上うえで、もえている木きの枝えだを  
見みつけました。ふしぎなことに、もえているのに、  
枝えだはいつまでもなくなりません。  
火ひの中なかから神かみさまのお声こえが聞きこえました。  
「エジプトにいて、イスラエル人じんを助たすけなさい。  
お兄にいさんのアロンといっしょにいきなさい」

